

馬産地ライター村本浩平の 2022 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑



Vol. **3**

8.9[火] ▶ 9.29[木]開催分

8.10
[水]

ダノンプレミアム賞

【フローラルカップ(H3)】

新種牡馬

ダノンプレミアムは現役時に15戦6勝。主なタイトルにはGI朝日杯フューチュリティS、GIマイルズC、GI金鯱賞、GI弥生賞があります。2歳6月のメイクデビュー阪神を勝利して臨んだ、GⅢサウジアラビアRCをコースレコードで優勝。続く朝日杯フューチュリティSもレースレコードで勝利し、この年のJRA賞最優秀2歳牡馬にも選出されます。3歳以降はGIタイトルに手は届かなかったものの、それでも4歳時のGI天皇賞・秋とGIマイルCSでは2着に入着。2021年からアロースタッドで種牡馬入りすると、シーズン早々に満口となる人気種牡馬となっています。

8.16
[火]

サトノクラウン賞

【王冠賞(H2)】

初年度
産駒
デビュー

サトノクラウンは現役時に20戦7勝。主なタイトルにはGI宝塚記念、GI香港ヴァーズがあります。2歳10月のデビューから連勝を重ねていき、GⅢ東スポ杯2歳SとGI弥生賞を優勝。GI皐月賞では1番人気の支持を集めます。古馬となってからも力は衰えることなく、4歳時の香港ヴァーズでGI初制覇。5歳時にも宝塚記念を優勝します。2019年から社台スタリオンステーションで種牡馬入りし、その年には207頭の繁殖牝馬に配合を行っています。次の年に誕生した初年度産駒は、今年、続々とデビューを重ねており、クラックオブドーンがメイクデビュー東京を勝利しています。

8.24
[水]

パイロ賞

【サッポロクラシックカップ(H2)】

パイロは現役時に17戦5勝。主な勝ち鞍にはGIフォアゴース、GIルイジアナダービーがあります。その競走成績もさることながら、北米で繁栄したPulpitの後継馬という血統背景も見込まれる形で、引退直後の2010年からダーレー・ジャパン・スタリオン・コンプレックスで種牡馬入り。早速、NARファーストシーズンサイアーに輝くなど、産駒たちは地方を中心に活躍を見せていきます。昨年のJpnIIBCクラシックをミュウチャリーが優勝。今年もJpnI帝王賞をメイショウハリオが勝利しており、キャリア初となるNAR総合サイアーランキングの首位も見えてきました。

9.8
[木]

シャンハイボビー賞

【イノセントカップ(H3)】

初年度
産駒
デビュー

シャンハイボビーは現役時に8戦6勝。主な勝ち鞍にはGIBCジュヴェナイル、GI米シャンペインSがあります。全6勝のうち2歳戦だけで5戦5勝という、仕上がりの良さとスピード能力の高さを証明したシャンハイボビーは、2014年シーズンからアメリカで種牡馬入り。後にシャトルサイアーとしてブラジルでも供用されます。そのブラジルやチリでGIウイナーも送り出すなど、十分な実績を残して2019年よりアロースタッドで繋養を開始します。今年のメイクデビュー福島をモンサンスヴニールが優勝。また、輸入馬のマリアズハートは芝短距離のオープンで2勝をあげています。

9.15
[木]

ゴールドドリーム賞

【旭岳賞(H2)】

ゴールドドリームは現役時に27戦9勝。主な勝ち鞍にはGIチャンピオンC、フェブラリーS、JpnI帝王賞、JpnIかしわ記念(2回)があります。3歳時からダート重賞を沸かす活躍を見せると、4歳時にはフェブラリーSと、チャンピオンCを優勝。その年のJRA最優秀ダートホースに選出されます。その後も5歳、6歳とGI級レースを優勝、もしくは2着となる活躍を見せていき、ラストランとなった7歳時のチャンピオンCでも2着に入着します。2021年からレックススタッドで繋養され、その年には日高管内の繋養種牡馬では最多となる、212頭の繁殖牝馬を集めてみせました。

9.21
[水]

ヴァンゴッホ賞

【リリーカップ(H3)】

新種牡馬

ヴァンゴッホは現役時に11戦2勝。主な勝ち鞍にはGIクリテリウムアンテルナシオナルがあります。父のAmerican Pharoahは37年ぶり、12頭目のアメリカクラシック三冠馬となっただけでなく、同じ年にはブリーダーズCクラシックも制した歴史的な名馬。種牡馬入り後は名牝たちが配合相手に集まる中、母にGI英オークス、GI愛1000ギニーの勝ち馬Imagineを持つ良血馬がヴァンゴッホです。クリテリウムアンテルナシオナルを優勝など2歳時の活躍が評価される形で、その年のカルティエ賞最優秀2歳牡馬にも選出。2022年からイーストスタッドでの繋養を開始しました。

9.22
[木]

マクフィ賞

【サンライズカップ(H1)】

マクフィは現役時に6戦4勝。主な勝ち鞍にはGI英2000ギニー、GIジャックルマロワ賞、GⅢジェベル賞があります。英2000ギニーではSt Nicholas Abbey、ジャックルマロワ賞ではGoldikovaと実力馬2頭を下してGI制覇を成し遂げた実力馬。引退後はイギリスとニュージーランドでシャトル種牡馬となり、まさに世界各国でグレードレースの勝ち馬を残した後に、2017年シーズンから日本軽種馬協会静内種馬場での繋養が開始されます。日本での初年度産駒は芝、ダートを問わない活躍を見せており、昨年のGⅢアイビスサマーダッシュをオールアットワンスが優勝しています。

9.29
[木]

ミッキーアイル賞

【ウボポイオータムスプリント(H2)】

ミッキーアイルは現役時に20戦8勝。主な勝ち鞍にはGINHKマイルC、GIマイルCSなどがあります。ディープインパクト産駒を代表するスピード馬でもあり、2歳時には芝1600mの2歳レコードを樹立。5歳時にはマイルCSを優勝、GI高松宮記念とGIスプリンターズSで2着となり、その年のJRA賞最優秀短距離馬に選出されます。2017年から社台スタリオンステーションで種牡馬入りし、初年度産駒のメイケイエールがGⅢ小倉2歳Sを優勝後も重賞で4勝を挙げる活躍。デュアリストはJpnII兵庫ジュニアGPを優勝するなど、産駒はダートでの活躍も目立っています。

今シーズンは
特別競走14レースも
「スタリオンシリーズ競走」
として開催!

- 門別10回
- アニマルキングダム賞
- 門別11回
- エスケンデレヤ賞

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産牧場に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。 ※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

